

美術をじっくり楽しむプロジェクト「じっくり／JIKKURI」を4月9日から開始

第1回目は、作品を「じっくり・なづける」展示と、絵画の世界に「じっくり・はいりこむ」展示を実施！

ポーラ美術館（神奈川県・箱根）は、美術をじっくり楽しむプロジェクト「じっくり／JIKKURI」を、2014年4月9日（水）から開始します。

「じっくり／JIKKURI」は、美術をもっと楽しんでいただくためのプロジェクトです。美術にはいろいろな楽しみ方があります。数ある楽しみ方のうちのひとつを提案するために、ディスプレイや鑑賞ツール（アプリや単眼鏡）を用意し、「鑑賞者の身体感覚に訴える」「気づきを促す」展示を行います。これにより、体感的、直感的に作品と向き合うことができ、作品をよく見る‘きっかけ’を得ることができます。

第1回目となる今回は、4月12日（土）から9月15日（月・祝）まで開催される企画展「モディリアーニを探して－アヴァンギャルドから古典主義へ」の会期に合わせて、「じっくり／JIKKURI」を実施。「なづける」と「はいりこむ」の2つをテーマに、作品のタイトルを提示せず鑑賞者の方に考えていただく展示と、展示造作によって絵画の世界に入り込むような展示を実施します。ポーラ美術館では、今後、企画展の会期ごとに、作品との向き合い方を提案するテーマを設け、継続的に「じっくり／JIKKURI」を実施します。



「じっくり／JIKKURI」ロゴ

■ じっくり「なづける」について

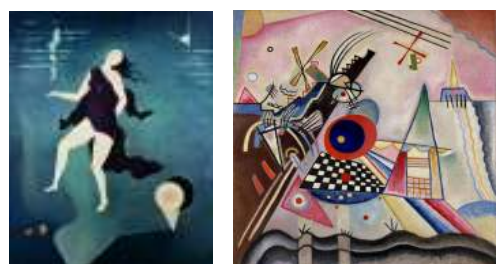
コンセプト：作品のタイトルを提示せずに鑑賞者の方にタイトルを考えてもらうことで、作品を意識的に観て、想像をふくらませるきっかけにする

「なづける」では、古賀春江とワシリー・カンディンスキーの作品を、タイトルを表示せずに展示し、鑑賞者の方にタイトルを考えていただきます。特に、古賀春江の作品については、考えたタイトルを設置されたタブレット端末に入力すると、作品の横のモニターに自分の考えたタイトルを表示できるほか、他の鑑賞者の方が考えたタイトルはコーナーの出口で確認することができます。これにより、他の鑑賞者の方がどこに注目したのかということや、自分では気がつかなかった部分などを知ることができ、作品をみなおすきっかけが生まれます。

なお、コーナーの出口には、2作品について、実際のタイトルと作品解説を用意してあります。タイトルに意外性がある作品なので、「そこをタイトルにするのか」などと画家の意図を知ることによって、作品をまた観たいという欲求が生まれます。

写真左から、

古賀春江、ワシリー・カンディンスキーによる作品



※1 枚目下部の作品情報は以下の通り。左から、

- ・古賀春江《白い貝殻》 1932年（昭和7） ポーラ美術館蔵
- ・ワシリー・カンディンスキー《支え無し》 1923年 ポーラ美術館蔵

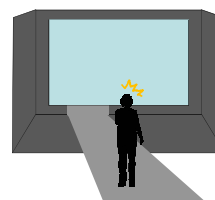
■ じっくり「はいりこむ」について

コンセプト：絵画の世界にはいりこめるような仕掛けの中で、ポール・デルヴォーの作品を展示し、作品のどこか怪しげな雰囲気や作品の特徴を「みる」のでは「体感」していただく

ポール・デルヴォーの大作《トングルの娘たち》について、展示造作の工夫や単眼鏡の設置、鑑賞位置の提案により、以下3つの作品体験をご提供します。（協力：株式会社ビクセン）

①絵の世界にまよいこむ（展示造作の工夫）

作品に集中できるように照明を落として閉鎖した空間に作品を展示します。本作は、作品の中の世界に引き込まれるような、もしくは反対に作品中の世界が鑑賞者側に拡張してくるような、独特の雰囲気を持ちます。作品の雰囲気をより強調し、作品の世界の中に入ったような感覚で作品を鑑賞できる空間を作ることで、作品を全身で体感していただくことができます。



②切り取って、細部をのぞきみる（単眼鏡の利用）

倍率の違う3種類の単眼鏡を設置します。単眼鏡は、作品の細部の鑑賞を可能にするとともに、「作品の一部分のみを切り取って鑑賞する」という体験を鑑賞者にもたらしめます。本作は、大きな画面の随所に細かな描きこみがあり、「一部分に注目すると全く違った世界が見えてくる」という体験を提供するにふさわしい作品と言えます。また、「単眼鏡でのぞく」という行為自体が、異世界をのぞきみたかのようなデルヴォー作品の世界観とつながり、作品を体感していただく一助になります。



③近づく、離れる。右に、左に。印象が変わる？（フットマークの設置）

フットマークを用いて鑑賞の位置を提案し、鑑賞する場所によって作品の見え方が変わる不思議な体験をしていただけます。本作には複数の消失点を持つ極端な遠近法が用いられており、実は作品中でその整合性がとられていません。その結果、鑑賞する位置によって、特定部分の遠近感がより強く感じられるなど作品の印象が違ったものになります。



ポール・デルヴォー 《トングルの娘たち》

1962年、161.0×251.7cm、ポーラ美術館蔵

©Delvaux Foundation Belgium-SABAM, Bruxelles & JASPAR, Tokyo, 2014
D0544

本作の世界にはいりこめるような仕掛けを用意し、作品を展示します。

※ポール・デルヴォーは著作権存続作家であるため、作品写真の使用には、著作権申請及び許諾が必要となります。写真使用をご希望の際は、広報事務局（TEL：03-3575-9823）までお問い合わせください。

■「じっくり」ロゴについて

「じっくり」ロゴのコンセプトは、「みかたをかえると、全くちがう世界がみえてくる」です。美術と向き合うさまざまな方法を提案し、それによって広がる可能性を模索する「じっくり/JIKKURI」。その根本にあるメッセージを、虫眼鏡をのぞいた世界であらわしました。



■企画展「モディリアーニを探してーアヴァンギャルドから古典主義へ」について

2014年4月12日(土)～9月15日(月・祝) ※会期中無休

エコール・ド・パリを代表するイタリア出身の画家・彫刻家、アメデオ・モディリアーニ(1884-1920)。本展では日本各地に収蔵されているモディリアーニの油彩画、彫刻、素描あわせて19点(うちポーラ美術館は3点の油彩画を収蔵)を軸に、ピカソやブランクーシなど20世紀初頭の芸術を牽引した主要作家の作品とともに、65点を展覧します。

確たる評価を手にすることのないまま、荒唐した生活のうちに短い生涯を閉じたことで、その存在は長く伝説的に語られてきましたが、同時代の状況に照らしながらたどることで、伝説の奥にみえてくるリアルなモディリアーニ像へと迫ります。



(左)アメデオ・モディリアーニ《ルニア・チェホフスカの肖像》1917年 ポーラ美術館蔵
(右)アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年 大阪新美術館建設準備室蔵

■ポーラ美術館について

ポーラ美術館のコレクションは、ポーラ創業家二代目の鈴木常司(1930～2000)が40年以上にわたり収集したコレクションです。そのコレクションは印象派を中心とした西洋絵画、日本の洋画、日本画、東洋陶磁、古今東西の化粧道具など約9,500点を数えます。「箱根の自然と美術の共生」をコンセプトに、周囲の環境に配慮し、森に溶け込むような設計がされているほか、2013年にオープンした国立公園内という立地を生かした遊歩道では森林浴が楽しめます。



【住所】〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山 1285

【電話】0460-84-2111

【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】年中無休(展示替のため臨時休館あり)

【入館料】※料金はいずれも個人料金、消費税込み ※中・小学生は土曜日、入館無料

大人1,800円、シニア割引(65歳以上)1,600円、大学・高校生1,300円、中・小学生700円

【ホームページ】<http://www.polamuseum.or.jp>

■報道(広報写真・取材等)に関するお問合せ先

ポーラ美術館 広報事務局：後藤、増田、三井

TEL 03-3575-9823 / FAX 03-3574-0316 / メール takashi.goto@kyodo-pr.co.jp